

SPECIAL GUEST

南場 智子氏 (株式会社ディー・エヌ・エー取締役)が 女性研究者支援室を訪れました。

株式会社ディー・エヌ・エーの創業者で、現在取締役ファウンダーを務める南場智子氏が6月17日に山口大学に来学しました。

南場氏は本学の経営協議会学外委員に就任しています。当日は学生、教職員を対象に、仕事に対する姿勢やリーダーシップ論について講演を行いました。講演中の南場氏はとてもパワフル!ご自身の経験に基づいた若い人たちへのメッセージには強烈なインパクトがありました。

講演の後には、女性研究者支援室で山崎鈴子室長、重本隆之学術研究部長、田立紀子コーディネーターと懇談を行いました。田立コーディネーターは過去に株式会社ディー・エヌ・エーでの勤務経験があり、南場氏とは元々面識があったことから、このたびが感動の再会!となり、懇談は大いに盛り上がりました。

南場氏には組織のリーダーや責任者になったときの心の持ちようについてお話しいただきました。また、キャリアの継続についても、ご家族の看護との両立といった自身の経験について語っていただきました。南場氏は今年、女性では日本プロ野球界初となる球団オーナーに就任します。話題の人となりましたが、懇談には横浜DeNAベイスターズの熱烈なファンも参加していましたことから、会話はさらに盛り上りました。



◆ PROGRAM ◆

■「第7回中国四国男女共同シンポジウム」開催!

大学における男女共同参画や女性研究者支援の推進について議論を行います。

日 時 11月27日(金) 13:00~17:00
会 場 山口大学 大学会館2F会議室
講 演 者 関西大学文学部 教授
多賀太氏(特別講演)他

※詳細は男女共同参画推進室、女性研究者支援室ホームページに掲載します。

■ 様々なキャリアデザインセミナーを開催します。

[全学対象]

文系の学生も対象です。

宇部興産キャリアデザインセミナー

宇部興産株式会社から女性技術者3名と事務系大学卒職員1名を招聘し、講演とディスカッションを行います。

日 時 10月14日(水) 14:30~17:30
会 場 総合図書館 1F
アカデミックフォレスト

[各学部対象]

● 農学部・共同獣医学部

博士学位を取得し、研究職に従事する本学修了生を招聘します。

日 時 12月9日(水) 14:30~17:40
会 場 総合図書館 1F
アカデミックフォレスト

◆ 詳細、お申込みについてはホームページをご覧ください。女性研究者支援室にもお気軽にご相談ください。◆

INFORMATION

学生の手カラを求めています! 研究補助員 学生サポーター 登録受付中!

女性研究者支援室では、本学学生による「研究補助員」および「学生サポーター」の登録を受け付けています。登録者には、業務が発生した場合に、支援室から募集業務の情報を送ります。業務を通じて研究活動への理解やキャリア設計に役立つ知識を得ることができます。

研究補助員

ライフイベント中(妊娠、育児、介護等)の本学研究者の研究を補助します。

業務内容 実験補助、統計処理、文献調査等研究の補助。

給与・就業時間 SA、RA、学術研究員及び技術補佐員としての雇用となり、給与もその規則に則ります。

学生サポーター

女性研究者支援室の活動に関する様々な業務の補助を行います。

業務内容 イベント補助(セミナー等の会場対応等)、広報補助(チラシ作成、取材補助等)、入力作業(アンケートの集計)等。

謝金 原則として、本学の謝金単価の規定に則ります。



発行

山口大学女性研究者支援室

協力: 山口大学男女共同参画推進室

文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業(一般型)」

〒753-8511 山口市吉田 1677-1(吉田キャンパス) 共通教育棟 2F

T E L : 083-933-5997 内線5997
U R L : <http://wr-shien.kenkyu.yamaguchi-u.ac.jp>
e-mail : wr-shien@yamaguchi-u.ac.jp

山口大学女性研究者支援室

NEWS LETTER

September
2015

モバイル版は
こちらから▶

山口大学 女性研究者 検索

vol.02

INDEX

- 各種支援制度について 01
- [特集] 山根基世氏鼎談 02-03
- レポート・案内 04-06
- アンケート結果報告 07
- 南場智子氏来室 08
- お知らせ 08



山根 基世氏(元NHKアナウンス室長)が来学。

岡学長、山崎室長との鼎談が実現しました!

次頁の特集

「山根 基世氏 × 岡学長 × 山崎室長 鼎談」をお見逃しなく!

研究補助員制度

対象 ライフイベント中の女性研究者、
ライフイベント中の男性研究者(配偶者が大学等の研究者の場合)

妊娠、育児、介護などのライフイベント中にある研究者の研究活動に対し、
大学院生等が補助業務を行います。

- 研究補助員の利用時間 … 1研究者あたり 150時間／半期(4月～9月末、10月～3月末)を上限
- 研究補助員 … 本学の大学院生及び学部生等
- 提供する補助業務 実験補助、統計処理、文献調査等の研究補助業務

メンター制度

対象 女性研究者(着任後概ね2年)

助言を必要とする女性研究者(メンティ)に対し先輩研究者がメンターとなり、
仕事上(教育・研究・大学運営等)の疑問や悩みなどの相談に対応します。

- 所属の学部がメンターとメンティのマッチングを行います。
- メンターについて希望がある場合(性別、年齢層等)は事前にお知らせください。
- メンティは原則、着任もない女性研究者が対象となります。
着任時期に関わらずメンタリングを希望する場合は支援室までお問合せください。

カウンセリング

対象 女性研究者、女子大学院生

個人的なお話をはじめ様々な相談に対応します。
相談の事実・内容についてのプライバシーは守られています。

吉田キャンパス	事務棟1階	保健管理センター内 カウンセリングルーム	毎週月曜日 9:00~17:00
小串キャンパス	医心館2階	保健管理センター内 カウンセリングルーム	毎週木曜日 原則午後
常磐キャンパス	本館2階	女性研究者支援室 常盤分室内	毎週木曜日 原則午前

申込み方法(原則予約制)

MAIL : wr-sodan@yamaguchi-u.ac.jp (カウンセラーホーム)
wr-shien@yamaguchi-u.ac.jp (女性研究者支援室)
T E L : 083-933-5997 (内線:5997) (女性研究者支援室)



一人ひとりが自分らしく輝いて

社会の中での女性のキャリア形成において持つべき心構え、
仕事と家庭を両立するための環境や支援の在り方とは。



実力派女性アナウンサーの草分け的存在として長年活躍し、女性として初のNHKアナウンス室長に就任した経験を持つ山根基世氏。岡学長との親交のご縁でこのたび本学に来学、山崎室長を交えた鼎談としてご自身の経験や女性のキャリア形成についてお話しいただきました。(2015年6月10日 学長室)

手探りのリーダーシップ

山根:山根さんは、NHKのアナウンス室長に女性初でなられたのですよね。就任の話が来たときはびっくりされたのだと。

山根:そうなんです。自分はずっとアナウンサーとしてやっていこうと思っていたから。管理職なんてやったことがないからムリですって言つたんですけど、「組織に恩返しして」なんて言われて。私はそれまでアナウンスという専門性を自分で伸ばしていくべきいいんだと思っていて、組織ってものをあまり考えずに働いていたん

です。でも、ある年齢になった時に、やっぱりリーダーシップっていうのが必要になってくるんですね。アナウンス室はこのままじゃいけないという問題意識を実は持っていた。それで就任したのだけど、組織をまわす側に立って初めて、組織に育ててもらっていたということに気づかされました。人材を育て、生涯働いてもらうために、どれだけ考え方、どれだけの経費がかかっているかとか。それも知らずに、若いころなんて不満ばかりでした。

山根:実は私も、昨年思いがけず女性研究者支援室長になりました。研究活動の傍ら、室長

としての業務や意識に費やす時間が多くなってき、奔走する日々です。
岡:山崎室長から山根さんへ、本学の取組みの説明をしていただきましょうか。
山根:本学は昨年度、文科省の女性研究者研究活動支援事業に採択されました。この事業において、学長は3つの誓約をしています。「女性研究者を増やし、世界で活躍できる人材に育つよう支援すること」「男女が互いに尊重し共同できる職場環境を作るため、女性研究者が大学の意思決定に加わること」「女性が選択する職業のひとつとして、研究者の道が開かれていること

を向学心旺盛な女子学生に積極的に紹介していくこと」です。現政府が、2020年には指導的地位の女性を30%にする目標を掲げています。要は女性も社会を支える人材として活躍してほしいと。そうすると、大学は人材育成機関ですから、学生たちに今の動きや世の中が変わろうとしているということを教育することが必要です。日本は、昔は女性が蔑視されているようなところがありました。

山根:社会の有り様として、日本はまだまだ男尊女卑のところがあるし、組織の決定権を持った場所に女性が入っていないかと変わらないですね。以前、働く女性向けの番組を担当しましたが、ここのスタッフでも女性は少数派。議論すると、男女の利害がことごとく反するわけ。家庭だけでは限界があるから、社会的な広がりの中で介護をするべきだ、なんて言ったら、俺のお袋を女房が看てくれなかつたらどうなるんだ、やっぱり女は家にいるべきだよな、って決定権を持つ男性が言うわけ。腹が立って反論しようとするんだけど、感情的に言っても伝わらなくて。悔しい経験もたくさんして学んだのは、論理的に、しかも相手の心に届く言葉で言わなければダメなんだってことです。

キャリアを重ねていくには

山根:キャリアを積んでいかれる中で、続けていた一番の要因は何だったのでしょうか。

山根:私は経済的に自立していたかったから、どんなに悔しいことがあってもやめる選択肢はありませんでした。あと、パートナーの選び方も大切。女性が仕事を続けることに理解があって、協力的な人でないと難しいですね。

山根:確かに協力してもらえないことが多いですね。でも私は専業主婦の家庭で育ったからか、自分が家事をしないと申し訳なく感じるような感覚が染みついています。

山根:私たちの世代は男女の役割分担意識が強いから、それがなかなか抜けない。でも、現実の生活は女性も働いて男性と同じように生活していますよね。なのに、古い意識を引きずって新しい仕組みの生活をしているから、そこにものすごいひずみというか気持ちの齟齬が起こりますよね。これは社会全体の意識が変わっていくことによって少しづつ変わっていくんじゃないかな。今、保育園へ送り迎えをするお父さんがすごく多くなってきた。イケメンね。男の人の中にも育児は義務じゃなく権利だっていう意識を持つようになった人がいっぱいいる。これは喜ばしい事です。ノルウェーの都市部など、育児休暇を男性の約90%が取っているそうですが、それくらいになってくると女性の働き方も変わりますよね。

山根:きっと変わりますね。本学では、女性研究者がライフイベントを迎えてキャリアを継続できるよう取組みをしていますが、女性研究者の数を増やしていくことも目標にしています。これは学長主導で。

岡:各学部が年次計画として女性研究者比率の目標を立てています。それを守って増やしていくってもらうのが基本。28年度には、全体で女性教員の在職比率を17%になると目標を立てていて、その達成に向けて努力することがすごく重要です。本学が本気になって取り組んでいるんだと示さないと、単に女性を登用してくださいねって言っているだけではなかなか進まない。

山根:だから目標を作ったのだと思いますが、キャリアを積ませないで、いきなり落下傘で女性がポストに置かれると難しい。そして、女はだからだめだと言われちゃう。女性へのキャリア教育と男性の働き方の仕組みを変えるということ、両方合わせてやっていく必要があると思います。



岡:あと、女性の研究者を増やすには、研究職や専門職に就くために若い人たちに大学院に進んでもらう必要があります。その後、社会でしっかり働いてほしいですね。勉強して、専門家として育ててもらって、そのことを、しっかり働くことで社会に還元してほしいなど。専門家として社会的に責任を果たすために、男性も女性も同様に仕事をしていくという意識を女性自身にも持つてほしいと思います。今の女子学生は何に對しても前向きで、すごく積極的ですね。



若い人たちへのメッセージ

山根:山根さんから女子学生や女性研究者へのエールを贈っていただけますか。

山根:研究者を目指した以上は、研究の喜びを知ってほしいですね。研究者の志みたいなものがちゃんと持てるまで、すごく時間がかかると思うんですよ。それを一回持てば、あと楽になるんですよね。自分が本当に、これをずっと好きで研究し続けて、そのことが何か社会的な貢献につながるって実感して腹に落ちたとき、ものすごく自分が救われる。志は自分を救うものだと思う。そこに至るまでは迷いも苦しみも悩みもあると思うけど、そこまでたどり着いたら、あとは、自分の人生とね、仕事がこうカチッとかみ合って。生きることと仕事することがイコールになってくるんですよね。でも、それはそこまでがんばっていった人しか味わえない。本当の仕事の喜びを味わえるまでがんばってね。

山根:すごく胸に響きました! 女性もがんばって、覚悟をもって、いい人生を歩んでほしいですね。

山根:一人ひとりが自分らしく輝いて自分の人生に納得して生きたとき、世の中全体が変わっていくと思います。

山根:日本独特の良さも持ったまま、変わってほしいなと思います。山根さん、今日はどうもありがとうございました。



Symposium Report

女性の活躍加速化シンポジウムを開催 「ダイバーシティ・キャンパスの創造を目指して」

6月2日、女性研究者支援室の主催で「女性の活躍加速化シンポジウム～ダイバーシティ・キャンパスの創造を目指して～」を開催しました。

基調講演では芝浦工業大学学長補佐・男女共同参画推進室長の國井秀子氏が「社会の変化と女性の活躍推進」をテーマに、世界142ヶ国中104位という低水準にある日本の男女格差指数とその背景、社会変革としての視点が必要な女性の活躍推進について、統計を用いて語られました。特別講演では日産自動車専務執行役員の星野朝子氏が「ビジネスを成功に導くダイバーシティ・マネジメント」をテーマに、企業の成長戦略のために欠かせなくなっているダイバーシティ推進活動について、実例を交えて紹介がありました。

続いて行われたパネルディスカッションでは、パネリストとして上記講師に加え岡正朗山口大学長が参加、またモデレータとして林裕子教授（山口大学大学院技術経営研究科）が参加し、「ダイバーシティがもたらす社会の変革と成長」をテーマに意見交換を行いました。講師の方々からは、「ジェンダーバイアスをなくすことは人間尊重のベースで、社会を進歩させるための基本。グローバル化に向けて感覚的にも知ることが極めて重要。」「日本は子供を産みたい女性が海外に流出する国になっている。この国で働きながら子供を育てたいと思える国になってほしい。」「指導的立場に就ける機会が来たら、もっと長時間働かなければ、と思って辞退するのではなく、チャンスをつかんでほしい。働き方を自分で開拓していくことがダイバーシティの極意。」という意見がありました。また、岡学長からは、「10年後にはアジアの風を感じるダイバーシティ・キャンパスになると明言している。男女の性差のなく、宗教やいろんな考え方を容認することで、大学の中で多様な人材が生まれるだろうし、その結果イノベーションが起こると信じている。女性研究者の支援体制をしっかりとつくり、女性研究者が活躍できるような大学を目指したい。」と決意が述べされました。

シンポジウムには、山口大学の教職員をはじめ行政関係者、一般の方々など約250名が参加しました。参加者からは、「企業によるダイバーシティ推進活動の具体的な取り組みを知ることができて、とても参考になった」「女性が活躍できる社会は、女性だけでなく男性にもメリットがあり、売上・利益の拡大や組織の成長に直結することが理解できた」との感想が寄せられました。



▲ 岡正朗学長が登壇したパネルディスカッション

会場はほぼ満席！



國井 秀子氏(左)、星野 朝子氏(右)

Seminar Report

キャリアデザインセミナーを開催 「イノベーションの現場から未来を見つめる君たちへ」

7月7日、産業技術総合研究所（産総研）のイノベーション推進本部総括企画主幹を務める山田由佳氏を招き、キャリアデザインセミナーを開催しました。

山田氏は元パナソニック先端技術研究所の研究員で、近年では「ウーマン・オブ・ザ・イヤー2014」のリーダー部門を受賞されています。このたび、山田氏の研究活動やリーダーとしての心構え、仕事と生活との両立について、学生や教職員を対象に講演をしていただきました。

セミナーは、7月7日に常盤キャンパスで、8日に吉田キャンパスで開催しました。

セミナーには、両キャンパスで約130名が参加。最初に「先端研究の醍醐味」についてお話しをされました。まず、山田氏の研究であるCO₂をエネルギーに変える人工光合成技術の開発などについて紹介。研究職の魅力として、「世界初のこと自分が最初に立ち会える興奮」「世の中で認めてもらう快感！」といった実体験を熱く語られました。



7月7日開催 常盤キャンパス 7月8日開催 吉田キャンパス

つづいて、「リーダーって楽しい？」をテーマにお話を展開。山田氏は今まで研究プロジェクトリーダーや部長職といった管理職を経験されています。若手のころに鍛えられて芽生えた反骨精神から、「多数決で決まるようなテーマをやってもらおう」という意識が根付き、リーダーに必要な「発信していく勇気」が持てるようになれたとのこと。結論として、「リーダーって楽しい!!」のだそうです。

講演の後には質疑応答が行われました。学生からは、リーダー

シップやキャリアの磨き方などについて質問が相次ぎました。研究と生活の両立についての質問には、「中途半端に周りに遠慮するのではなく、限られた時間の中で自身の価値を出していくことを考え、自分じゃないとできない仕事をするよう工夫をすること。」とのアドバイスがありました。

最後に、山田氏が好きな言葉が紹介されました。高村光太郎の『道程』に出てくる「僕の前に道はない 僕の後ろに道はできる」。この言葉は、漫画「エースをねらえ！」（ある年代の女性ならみんな知っている熱血テニス漫画。山田氏お勧め。）にも出てくるそうで、学生時代に愛読していた山田氏にとって、研究開発業務に従事するうえでの心の支えとなっているとのことです。



進士正人工学部長によるあいさつ
(7月7日)



▲ 熱心に質問するシーンもあって盛り上がりました。



▲ 山田氏を囲んで華やかに盛り上がっています
いつもと違う工学部の雰囲気で、ちょっと戸惑う進士正人工学部長。

Report

ライフイベント講習会を開催

6月11日、「第1回ライフイベント講習会」を開催しました。

初回のテーマは「学童(小学生)の保育」。鍋山祥子男女共同参画推進室長による講習会の趣旨の説明の後、本学の子育て支援制度について人事課の職員が説明を行いました。講習会には関係者含め18名の教職員が参加。今回は特別休暇制度の説明が中心となりました。その後質疑応答や意見交換を通じ、参加者同士の交流が行われました。

講習会は、今年度内にあと2回予定しており、次年度以降も継続的に実施する予定です。

お時間の許される方はお気軽にご参加ください。



▲人事課職員による説明

終了 第1回 6/11(木) 学童(小学生)の保育
第2回 10/8(木) 妊娠・出産
会場: 女性研究者支援室
第3回 1/21(木) 乳幼児の保育

時間: 12:00~12:30
会場: 女性研究者支援室

講習会で配布された「子育て支援制度のパンフレット」は、男女共同参画推進室のホームページからダウンロードできます。



学童保育を実施



山口大学初の試みとして、児童の夏休みの期間(7/21~8/31)に学童保育を実施しました。

この学童保育は、本学の女性研究者研究活動支援事業の実施を機に、春の学童保育の試行(4/1~4/8)や学内のニーズ調査等を踏まえ、公募を行ったものです。本学の学生が主体的に携わって学童保育のプログラムを考え、実践する等、本学ならではの学童保育に児童・保護者の皆様にも大変好評なものになりました。また、7月31日には、岡学長、理事による視察が行われ、子供たちと一緒に「ミサンガ作り」を行いました。

山口大学が「くるみん」マークを取得

山口大学は、7月16日付けで山口厚生労働局から次世代育成支援対策推進法に基づく基準適合一般事業主に認定され、「子育てサポート企業」として次世代認定マーク「くるみん」を取得しました。山口県では16機関が認定されており、県内の大学では初の取得になります。本学が男女ともに働きやすい職場となることを目指し、ダイバーシティ・キャンパスづくりに取り組んでいることが高く評価され、この度の「くるみん」マークの取得となりました。



「くるみん」マークは、印刷物、名刺等に使用することができ、厚生労働大臣から認定を受けたことを明らかにすることで、学生や社会一般へのイメージアップにつながります。

女性研究者・若手研究者を対象とした科研費の講習会を開催

URA室および研究推進課との連携で、科研費の講習会を開催しました(7月8日工学部、8月26日医学部)。講習会では、URAが戦略的な研究計画調書の書き方の説明を行いました。工学部では科研費の制度概要に加え、ライフイベント時に対応する制度についての説明を行いました。医学部では初めて申請する方を対象とした調書作成のポイントを中心に説明を行ない、両会場で約90名の参加がありました。

今後もURA室等との連携により、研究力向上のための企画を実施していく予定です。



▲科研費申請のポイントを説明する田中URA

ご案内 大型プロジェクトや共同研究への女性研究者の参画を推進しています。

7月17日に工学部で開催された山口大学光・エネルギー研究センター準備会主催のシンポジウム「光機能材料が生み出す新エネルギーと社会」について、支援室が学内の理系女性研究者への呼びかけを行い、テーマに関心のある女性研究者の方々に参加していただきました。以下、当シンポジウムおよび研究プロジェクトの代表である理工学研究科の横川俊哉教授と参加した女性研究者からいただいたコメントを紹介します。

横川俊哉教授(センター代表)からのメッセージ



光・エネルギー研究センターでは研究者の活躍の場を広げていきたいと考えています。センターの重要な取り組みとして共同研究のネットワーク強化があります。女性研究者の皆様からもセンターの活動への多くのご関心を期待しています。

参加した女性研究者の感想

このようなプロジェクトを通して学部を超えた情報交換ができるのが楽しそうだと感じました。今後も参加し、研究交流セミナーなどをきっかけにネットワークを広げ、自身の手法とマッチする研究テーマを探ることができればと思います。

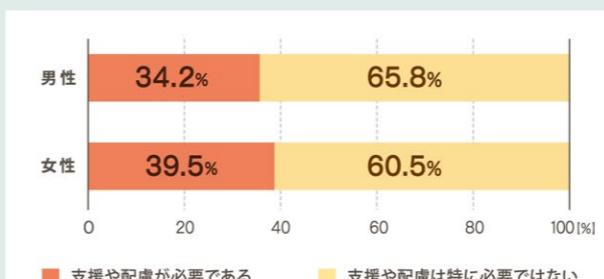
Survey

ワーク・ライフ・バランスに関する調査結果報告

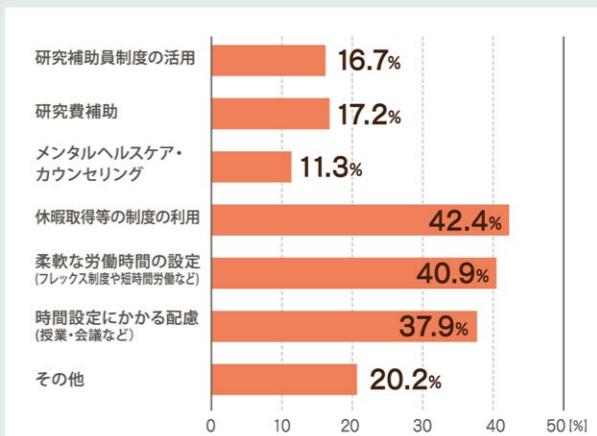
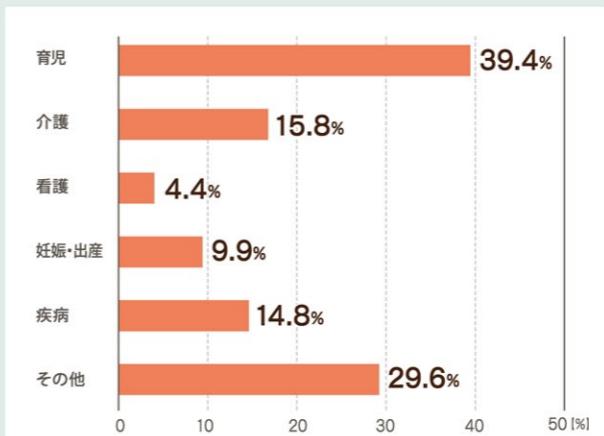
教職員のワーク・ライフ・バランスを支援するにはどのような制度や改革が必要であるのかを検討するために、男女共同参画推進室と女性研究者支援室と共同で、平成27年3月~6月にかけて「ワーク・ライフ・バランスに関する調査」を実施しました。ご協力をいただきました教職員の皆さん、ありがとうございました。

調査対象者は、全常勤教職員及び非常勤教職員の3,684人です。アンケート方法は、Webアンケート調査で実施しました。566人から回答を得て、回答率15.2%でした。低い回答率ではありますが、子育てや介護等の理由で仕事と生活の両立の問題を抱えている、あるいは問題を抱えた経験のある方からの回答が多く含まれており、大学としてのワーク・ライフ・バランスの制度設計や改革の検討に重要な資料が得られました。その調査結果の中から、山口大学の状況として全教職員の方にご理解いただきたい結果を示します。

仕事と生活の両立が困難で、支援を必要としている教職員の状況



仕事と生活の両立が困難で、「支援や配慮が必要である」と回答した者は全体で36%です。詳細にみると、男性よりもやや女性のほうが多く(図1)、30代~40代の教職員(図2)が他の年齢層より「支援や配慮を必要としている」状況にあります。とはいっても性別や年齢にかかわりなく「支援や配慮を必要とする」状況の教職員がいることがわかります。



「支援や配慮を必要とする」理由は、育児だけでなく、親の介護や本人の病気、家族の看護などがあげられます(図3)。そして、どのような支援や配慮を求めているのかというと、教員か職員かという立場の違いはありますが、「休暇取得等の制度の利用」「フレックス制度や短時間勤務など柔軟な労働時間の設定」が最も求められています。現在、山口大学で整えられている休暇制度や、育児又は介護を行う職員の勤務の緩和措置等が、教職員に理解されて活用されること、また上司(管理者)や同僚が時間管理の重要性についての意識を強く持ち、互いの状況に理解と配慮をすることが、制度のさらなる充実と利用促進はもちろんのこと、状況の改善にとって重要です。

今回、「業務上、改善されるべき事項」や「仕事と家庭の両立について部局や全学への提案」などの自由記述では多くの意見が寄せされました。大学でワーク・ライフ・バランスを推進していくための重要な声です。最も多く寄せられた声は「適切な人員配置および人員の充実」「業務内容の見直し」です。また、「学内における保育施設の設置」を求める声も多くありました。今後、これらの意見は大学としてのワーク・ライフ・バランス施策に活かしていきます。このような活動について、教職員の皆さんには育児や介護などのライフイベントを支援するためのものという理解だけでなく、いつか我が身に訪れるかもしれない仕事と生活の両立困難な状況のため、あるいは自分自身が望む生活と仕事の両立のため、よりよい職場環境づくりとして関心を持っていただければと思います。

本調査の詳しい結果は、男女共同参画推進室および女性研究者支援室のホームページに掲載します。